

様式第 4 号

議事録又は議事概要

会 議 名	美浦村社会教育委員会議兼公民館運営審議会
開 催 日 時	令和 2 年 3 月 2 4 日（火）午後 1 時 3 0 分
開 催 場 所	美浦村中央公民館 2 階 会議室
議 題	(1) 政策提言 (2) 美浦大学・美浦大学院要綱について
公開・非公開の別	公開
傍聴人定数・傍聴人数	傍聴人定数 6 名・傍聴人数 0 名
審 議 内 容	<p>◎は意見。Qは質問。Aは回答又は結論。</p> <p>(1) 政策提言</p> <p>◆事務局説明主旨</p> <p>教育長に提出する政策提言書（案）について前回ご協議いただいた提言書の様式及び要旨は変えていないが、より具体的な文言に修正したことについて審議ねがいます。</p> <p>A. 原案のとおり可決し、同日教育長へ提出する。</p> <p>(2) 美浦大学・美浦大学院要綱について</p> <p>◆事務局説明主旨</p> <p>設置及び運営要綱について、前回指摘のあった「総理する」「書類選考」等の部分を一般的な文言へ修正したほか、事業実施の会場指定の削除等、軽微な見直しを行ったことについて、また、募集要項・事業計画について審議ねがいます。</p> <p>A. 設置及び運営要綱について原案のとおり可決</p> <p>Q. 募集要項について、募集する「事業の実施目的」を明確にするために要項の「目的」に設置要綱の目的を追加したほうがわかりやすいのでは。また、募集の「対象」とあるが「応募資格」ではないのか。</p> <p>Q. 項目の順番について、応募する側がわかりやすいように並べ替えてはどうか。</p> <p>A. ご指摘のあった部分について、設置要綱の目的の要約を記載するなどして修正します。</p>

Q. 学習に係る経費は全て、実費となっているが学費3,000円を事前徴収する理由は。

A. 一般会計から支出しているバス借上げ料の一部を、負担いただく目的で一般会計に納入している。
実際の支出額が70万円以上なので比較すると遠く及ばない。

Q. 美浦大学院の学習計画について、学習内容の村への還元としているが、学習内容を考慮していかないと実現は難しいのでは。たくさんの応募が来るように考えていただきたい。

Q. 還元の計画について、すでに道筋は決まっているのか。

A. 大学院の開始にあたり、まずは還元のきっかけとなるよう計画を考えていきたい。

◎（今回の学習計画に災害ボランティア体験が入っているため）本来ボランティアは自発的にやるものだが、村主導で大学院課程修了者が、災害ボランティアに加わるよう生涯学習課が生活安全課とすり合わせをしてください。

◎大学院課程修了後の学習内容の村への還元について、フロー図を作成するとわかりやすい。

Q. 大学院の学習テーマが災害ボランティア体験とすると研修の回数が不十分ではないか。災害ボランティア以外の計画を変更してはどうか。また、体験のみで終わらせるのではなく、学生にまとめや報告を提出させ、今後の方針の検討材料にするというのはいかがでしょうか。

A. 見る・聞く・知るを主としたため、災害ボランティア以外に文化財センターでの体験や議会報告会見学の計画を入れた。学生からの要望があれば、学習計画の変更は可能と考えている。

Q. 大学院を長く続けるのであれば、年度ごとにテーマを絞って実施していかなければならない。テーマを変えていかない

	<p>と人が集まってこない。 美浦大学は「楽しみ」があるので応募があるが、学習面を全面に出している美浦大学院には「楽しみ」の要素が無い。 とても大変だと思う。</p> <p>A. 生涯学習課としても、学習面を全面に出している美浦大学院には人が集まらない危惧はあったので、視察研修や縄文体験等の楽しみを取り入れて計画した。また、まとめや報告について、次年度は災害ボランティアを主テーマとしているので、美浦村や他方面で実際にあった災害状況や災害ボランティアの学習に対する学生自身の収穫を発表する場を提供することで対応したい。 令和3年度を含め、今後テーマを検討し続けるとなると大学院を続けることは難しい。</p> <p>◎学生が集まってくれば、たくさんの「知りたい」というテーマが増えてくる。「美浦村を知る」ということをテーマとすると、新規住民に対し「美浦村を知ってもらおう」機会にもなってよい。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>◆提言書提出</p> <p>A. 提言書について意見をいただきありがとうございました。 来年度以降の生涯学習課の事業施策や予算要求について有効に使わせていただく。</p>
<p>問 合 せ 先</p>	<p>美浦村教育委員会 生涯学習課 担当田崎 電話 029-885-4451</p>